

- 香取市栗源・小見川・山田地区では、さつまいもの年内供給過剰に伴う単価低迷によって、作付面積が大幅に減少することが予想された。
- このため、農業事務所では、**貯蔵期間の延長に向けた大型キュアリング機能付き貯蔵庫の整備**や**輸出による販路拡大**の取組を支援した。
- その結果、地域のさつまいもの**10aあたりの販売金額は5年間で約40%アップ**し、農家の収益向上につながった。
- 輸出は販路として定着し、周年出荷することで**年間100t以上**を販売。

## 具体的な成果

### 1 単位面積あたりの販売金額アップ

- 貯蔵庫の整備による長期貯蔵や計画出荷により、販売価格が安定。



図1 さつまいも大型貯蔵庫

- 委託増殖によるウイルスフリー苗の導入拡大や新規に導入された粘質系品種「べにはるか」の栽培技術定着による収量・品質の向上 (H23～26→H28)。

- ① **10aあたりの販売額**  
27.6万円(H23)→39.1万円
- ② **ウイルスフリー苗導入率**  
47%(H26) → 71%
- ③ **べにはるかの10株重**  
9.2kg(H25) → 10.6kg

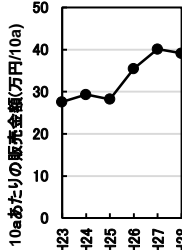


図2 面積当たりの販売金額

### 2 輸出による販路拡大

- 輸出により、農業者の生産意欲が向上。
- 国内で需要が少ない小さなイモの販売単価の向上
- 販路としての輸出の定着と周年出荷体制の構築による輸出量の増加(H26→H29)。

- ① **マレーシアへの輸出を開始**
- ② **さつまいも輸出量**  
3t → 131t

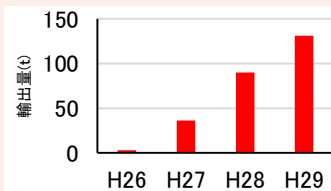


図3 さつまいも輸出量の推移



図4 輸出を呼びかけるチラシ

## 普及指導員の活動

平成23～26年度

- **キュアリング処理の確認方法**の確立。
- 農業者向けの**長期貯蔵マニュアル作成**。
- 貯蔵庫の導入効果を検証し、周知することで貯蔵庫の利用を提案。

平成25～27年度

- 先進地視察をきっかけに作業が競合する**育苗初期の外部委託に取り組み、ウイルスフリー苗の導入が拡大**。
- 地区間の技術格差を解消するため、検討会や講習会を年2回開催。

平成26～29年度

- 輸出開始当初、問題となった**腐敗の発生原因を特定して解決**。
- 輸出の概要がわかる資料を関係機関で作成・配付することで身近な取組に。
- 輸出の周年化に向けて**貯蔵技術の細かな指導**を実施。

## 普及指導員だからできたこと

- 産地に深い信頼を得ている普及指導員を中心に関係機関が連携することで、貯蔵庫の整備や輸出といった**大きな取組を数年で軌道に乗せることができた**。

- 普及指導員が**現地のデータに基づいて説得力のある提案**を行うことで、農業者が所得向上を目指して新品種やウイルスフリー苗といった栽培技術の改善に取り組むきっかけとなった。

千葉県

## 大型貯蔵庫を核としたさつまいも産地の強化

活動期間：平成23年度～平成29年度

### 1. 取組の背景

JAかとり栗源・小見川・山田の各地区では、販売価格の低迷の原因であった年内の供給過剰と簡易貯蔵による品質のムラを解消することが喫緊の課題であった。そこで、JAかたりの大型貯蔵施設の整備を支援することで、長期貯蔵による有利販売に取り組むとともに実需者ニーズに合った販売体制の強化、販路の拡大を目指した。

### 2. 活動内容（詳細）

#### (1) 県内初となる大型キュアリング機能付き貯蔵庫の整備

##### ア 価格低迷の要因分析

市場への月別希望数量の聞き取りと出荷実績の比較を行い、年内の供給過剰や産地内の出荷組織が多く存在していてロットがまとまらないことが価格低迷の原因であることを明らかにして関係機関と情報共有した。

##### イ 活動体制の整備

JAかとりでは平成23年度国庫事業「産地収益力向上支援事業」を活用して県内初となる大型キュアリング機能付き貯蔵庫を整備した。

事業の円滑な推進と当施設の利用促進に向け、JAかとり、香取市、香取農業事務所は、「産地収益力向上対策協議会」を発足した。この協議会においてキュアリング処理試験、アンケートによる消費者ニーズの把握、先進地視察等を実施した。

##### ウ キュアリング処理技術及び安定した貯蔵技術の確立

確実なキュアリング処理と貯蔵技術の確立に向け、農林総合研究センターの協力により、キュアリング処理の成否を確認する方法の確立を目指した。また、キュアリング貯蔵施設利用推進と利用技術向上のため、キュアリング処理の有無による品質への影響を調査した。さらに、長期貯蔵に向けて問題となっていた萌芽や、結露による色ぼけ対策に取り組むとともに生産者向けの長期貯蔵マニュアルを作成した。

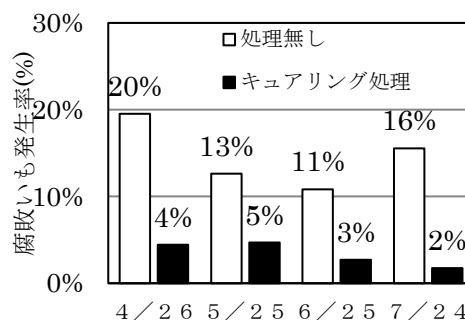


図1 キュアリングの有無による腐敗したいもの発生率(H23～24実施)

#### (2) 三地区一元集荷による大型需要に対応できる産地づくり

##### ア 技術交流の促進による組織の意識向上

JA かとりの香取市内3組織(小見川野菜出荷組合、栗源園芸部、山田支部)は販売体制の強化のため、平成13年のJA合併以降も継続していた旧JA単位の集出荷体制を改め、平成25年産より一元集出荷販売を開始した。そこで、生産者間の技術交流のため、香取西部地区の取組を参考に作柄検討会を実施することとした。また、導入が進みつつあった粘質系の新品種「べにはるか」について合同研修会を行うなど重点的に指導を行った。



図2 作柄検討会の様子

### イ 育苗省力化によるウイルスフリー苗普及拡大の検討

さつまいもの収量・品質向上にはウイルスフリー苗の利用が効果的である。しかし、当地区の特徴はさつまいもと他品目の輪作が維持されていることである。ウイルスフリー苗は低温期(1月～)の育苗のため、こまめな温度管理が難しく、苗の増殖作業がエンジンの播種やジャガイモの定植と競合するため導入率が周辺産地に比較して低く、生産者の品質差の一因となっていた。そこで、宮崎県や成田市の先進事例を参考に平成27年に栗源地区の育苗会社に初期育苗(一次増殖)を委託する取組を検討し、輪作体系を維持しつつウイルスフリー苗の普及拡大を目指した。

## (3) 輸出による販路拡大

### ア 輸出開始に向けた体制整備

平成25年度、香取農業事務所が事務局となっている、管内の市町やJA、農林業関係機関で構成される「香取地域農林振興協議会」の活動の一環で、知事のトップセールスに合わせてさつまいもの輸出に取り組むことになり、JAかとり、JA多古町が県流通販売課の協力を得て、マレーシアへの輸出に取り組むこととなった。

### イ 輸出拡大に向けた技術支援

輸送中の温度変化を調べるため温度計を荷物に設置して経時変化を調査した。輸送中のコンテナ内温度は他品目との混載のため設定温度が低く、5℃で約2週間推移していたが、荷受した現地業者の倉庫で高温となってから低温で流通しており、これが品質低下の原因であることをつきとめてJAや輸出業者と共有した。また、さらなる品質向上を目指してちばの農林水産物品質向上推進事業を活用し、鮮度保持シートの導入試験を実施している。



図3 輸出促進チラシ(H28作成)

### ウ 輸出拡大に向けた生産者への働きかけ

県流通販売課と連携して現地での千葉のさつまいも人気の様子を伝えるチラシを作成し、輸出を行う2JAの生産者に配布して輸出向け出荷を働きかけた。

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### (1) 単位面積当たりの販売金額の40%アップ (H23:27.6万円/10a→H28:39.1万円/10a)

##### ア キュアリング処理、長期貯蔵による有利販売

キュアリング処理を行った出荷物は4～7月までの期間、「キュアリング処理」シールを貼り差別化を図ったところ、無処理品に比較して約40円/kg高く有利販売できた。長期貯蔵により単価の高い4月以降に出荷可能なため、施設利用希望は年々増加傾向にあり、近年は稼働率100%を超える状態にある。

また、冷凍機や加湿器を装備した専用貯蔵庫の効果が認知され個人での専用貯蔵庫の導入(H25:2戸、H27:1戸)にもつながった。

##### イ 計画出荷による産地の信頼度向上と価格の安定

洗浄選果施設が隣接しているため、需要に合わせて出庫及び洗浄選果して出荷することで、農繁期においても一定量が出荷可能になり産地の信頼獲得につながった。さつまいもの価格安定による作付意欲の向上と貯蔵施設・洗浄選果施設の一体的な運用による省力化で平成28年には150haを下回ることが予想された作付面積は約180haとなり作付面積の縮小を低減することができた。

##### ウ ウイルスフリー苗の普及拡大と栽培技術の向上

苗増殖委託の取組は育苗会社の都合で2年間しか継続できなかったが、ウイルスフリー苗の導入効果と作業競合の生じない3月に導入する考え方は農業者に浸透した。また、栽培技術は年々向上しており、作柄検討会におけるウイルスフリー苗利用率は47%(H26)から71%(H29)に増加した。特にべにはるかにはウイルスフリー苗の利用に加えて施肥体系の改善で収量は増加傾向となっている。

#### (2) 新たな販路としての“輸出”の定着

さつまいもの輸出量は年々増加しつつあり、平成28年には約90tまで増加した。また、平成29年は大型貯蔵庫を活用した11月までの貯蔵で周年供給に取り組むことで約131tとなった。生産者にも輸出を販路の一つという考え方が浸透しつつあり、さらなる輸出拡大が期待される。

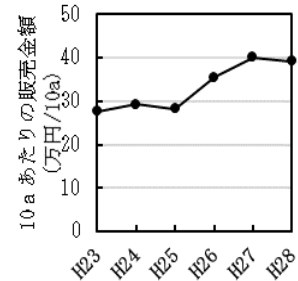


図4 大型貯蔵庫導入後の10a当販売金額の推移

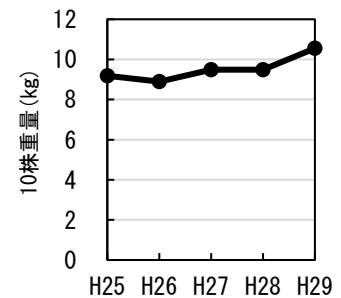


図5 作柄検討会におけるべにはるかの10株重の推移

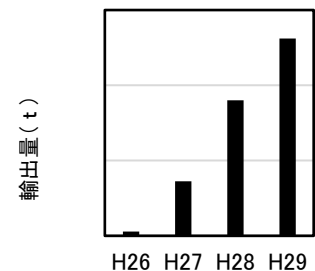


図6 さつまいも輸出量の推移

### 4. 農家等からの評価・コメント

#### (JA関係者・農業者 0氏)

貯蔵技術向上に向けたサツマイモの充実度判定により適正な貯蔵ができるようになった。生産者が貯蔵庫への入庫時の判断ができるようになり、傷み

によるロス発生の軽減へと繋がっている。

また、輸出においては、近隣JAを巻き込んだ千葉県産さつまいも全体の動きへとつながり、周年出荷分を確保することができるようになった。

管内では、コンテナでの土付き出荷を推奨することで労働力軽減が図られるなど、様々な出荷パターンに取り組むことで産地振興に繋がっている。

## 5. 普及指導員のコメント

(香取農業事務所 改良普及課・普及指導員・山下雅大)

JAかとり、JA全農ちば、香取市、県の各機関等の連携が密にとれていたからこそ、貯蔵庫の整備や輸出といった大きな取組を早期に軌道に乗せることが可能であった。特に産地育成を進めるにあたって、普及組織が現場で発生した問題を迅速に把握、分析して関係機関と連携して早期に解決できたことが取組に大きく貢献している。また、関係機関が一体となって活動することで約150名の対象農業者を効率よく指導でき、継続した指導体制の確立によって担当者の異動があっても一貫した産地育成を行うことができた。

(担い手支援課 専門普及指導室 主席普及指導員 多田一夫)

農業革新支援専門員の役割は、同じサツマイモ産地を抱える印旛農業事務所と地域を跨る連携活動が図れるよう、専門員の「県域活動」として位置づけ、普及指導員が効果的・効率的に現地で活動できるよう、技術・経営指導及び普及方法等についての指導や、試験研究との調整に努めている。

また、本県のサツマイモ4産地の発展を図るため、県・JAグループ・(公社)千葉県園芸協会から成る「千葉県さつまいも協議会」の一員として、行政と現場との連携、産地間の連携がスムーズに進むように調整を行っている。

## 6. 現状・今後の展開等

販売価格の向上という最大の課題を解決したものの、高齢化の進行で作付面積は減少傾向にある。新たな担い手を確保、育成するとともに現在、省力化が進んでいる貯蔵・出荷調製作業に加え、定植や収穫といった体への負担の大きい作業の負担軽減を目指し、機械化体系や作業受委託システムについて検討を行っている。